

# めだかの学校だより

平成 17 年 5 月 1 日  
第 48 号

学舎：東久留女木新田観音山  
「みどりの郷キャンプ場」内  
事務局：引佐郡引佐町  
東久留女木 472-1111  
TEL053-545-0381

## 校長訓話

第四十八回校長 八木 正子

「落語、チンドン、笑いの文化」

常に楽しさを追い求める私は今大衆文化の落語に魅かれています。でも、今まで寄席に通っていたわけではありません。専らテープを聞くことで楽しんでおりました。落語家に向かって聞き惚れて口をパカんと開けている人、笑うタイミングが分からず表情が中途半端な人、終始にこにこしている人、いろんな人を一人の話し手が「むすんで」いる。落語が醸し出すそんな空気に心地良さを感じてテープを聞いては膝を叩いて喜んでいきます。まぬけな熊さん、短気な康ちゃんの中に自分を見つつけ「人生肩の力を抜いていかなくちや」と思ったりします。純朴な主



人公がふと一番大切なことを思い出させてくれることがあったりもします。他に楽しみといえは気の合う仲間とのチンドン、とにかく最高に楽しい。この写真は私の一番お気に入りの衣装です。化粧を濃くして十年、カツラをかぶって二十年。都合三十年若くなって私はハタチの娘、街に出れば「お姉ちゃん！」と声が。握手攻めにあつてとつてもいい気分。お年寄りの場では「綺麗だねえ」と

着物を褒められ、涙ながらにまた来てと言われます。

日本で屈指のプロチンドンマンK氏の言葉に「相手との間合いを図り、サツと相手の心に心地良く入り込む。それが私の目指すチンドンです」とあるように人の心を「ひらいて」魅せるチンドン、私は今チンドンに魅せられているのです。チンドン仲間との活動も、ひとつの文化を伝承していることだと思います。チンドンは見えて楽しむだけでなく、やる側にまわったら楽しさは何倍に。果け防止と言う人もいますが、私は感性をさらに磨くと言った表現が好きです。

落語は楽しい話、すなわち「楽語」かな？と思います。そこで落語も聞くだけではなく喋る方になろうかしらと。今回は笑いの文化がテーマ、私の創作落語で「メダカ寄席」開演です。おっと「よせ！」はないですよ。笑い転げた生徒は、よじれた腸を「むすんで・ひらいて！」

## めだかの学校伝言板

——第 48 回めだかの学校を開校するので出席しなさい。開校日／平成 17 年 6 月 3 日（金）6:20PM より

校長／八木正子 受付／桑鶴博宣・太田民次・西川裕子

教頭／藤田潤吉

用務員／徳増兼弘

給食係／萩田博・徳増兼弘・村木謙弼・鈴木真弓

伊藤英雄・石野省三・佐藤律子・大谷香代子

佐野文子・渡辺三ツ子（チーフ）

※欠落・間違いの人がいたらごめんなさい。

開講日 3 時から学舎にお集まりください。

<学舎> 静岡県引佐郡引佐町東久留女木観音山

観音山みどりの郷キャンプ場

TEL なし

齋藤昭（後見人）

<時間割>—石頭むすんで開いて笑いの文化・

笑って笑って善玉菌増やそー

・一時間目／地学「ストーンと化けて石地蔵」

土屋誠一先生

・二時間目／家庭科「アーと入選真弓の技・

東京まで行っちゃた」

鈴木真弓先生

※給食の時間—「お芋の煮ころがし？」お楽しみに…

# 泳ぎ回るめだかたち

## ■グリーンツーリズムを楽しむメダカ

クマーラさんは、スリランカから来ている男子留学生である。生まれたときから、視覚障害があるが、明るく好奇心旺盛で、かつ優しい性格の青年である。五年ほど前に、「ダスキング・アジア太平洋障害者リハビリ育成事業」で、浜松が多かったようであるが日本に一年間滞在し、障害者福祉の勉強をしている。日本に来る前は、スリランカ大学で文学の学位を取得し、ろうきょう学校で盲人に音楽、英語、点字などを教えていた。地域の障害者教育に興味があり、彼らの社会的、経済的ステータスを向上させたいと願っていた。日本での視覚障害者に対する教育法を学ぶために、ダスキングプログラムに応募して、何十倍もの難関を突破し来日した。その後、帰国し勉強の成果を生かして、産所を立ち上げた。そして今回は、情報関係の勉強のために関西の大学に再び学びに来ていると言う。

そんなクマーラさんに遭ったのは、四月末に、新豊田市、旧豊岡村大平の鈴木正士さんのお宅を会場に、毎年行われている「お茶摘み&コンサート」であった。鈴木さんの強い思い入れで続けられているこの催しは、今年で9回目になる。無農薬栽培の茶園でのお茶摘みやたけのこ掘り、その後は採れたての山菜を使った料理をみんなで作って、ヒメシヤラやク又ギなどの新緑がまばゆい木立の中で、自己紹介をはさみながら会食するのである。会食の後は、鈴木さんゆかりの演奏家をお招きしてのコンサートがつきものである。今年は、静岡県演奏家協会浜松支部の高木豊美さんのヴァイオリン、加藤しのぶさんのキーボードであった。そして、フルートにギター、オルガン演奏が得意なクマーラさんが、持参の横笛を加わり、思いがけないコラボレーションを奏しませてくれた。クマーラさんは日本の曲のほかに、スリランカの茶摘みの歌も演奏してくれていた。演奏を続けるうちに、スリ

ランカを思い出したのか、自然の中で笛を吹いていると、スリランカのふるさとに帰ったようだと言っていた。浜松の「ウイズ」という視覚障害者授産所の方と一緒に参加した彼は、とても感が鋭く、豊岡村の里山の自然をじつと体感したようである。そして、蕎麦打ちにも挑戦し、アシストを受けながらも見事にそば切りまでやり遂げた。本当に楽しそうで、「お茶摘みに来て良かった、みんなに会えてよかったです」と盛んに言っていたが、社交辞令ではなく、本当にリフレッシュしているようであった。自分も、良かった、クマーラさんに遭って良かった。

この「お茶摘み&コンサート」が目指すようなグリーンツーリズムは、単に都会の人たちが田舎の自然とのふれあいや農作業体験を提供して、喜んでもらいうだけではないことが、改めてわかった。グリーンツーリズムは、人と人の交流の機会を創り、人的なネットワークを広げることもできる。いろいろな障害や病気を抱えている方にも、外出の機会となり、新たな体験に挑戦、日頃の苦勞を癒す効果も大きい。グリーンツーリズムには、さまざまな力（ちから）がある。県では、いま、障害者や病気の人のための福祉園芸を含めた誰でも参加し楽しめる「ユニバーサル園芸」を推進している。いささか、カタカナ言葉の羅列になるが、グリーンツーリズムにも同様に、「ユニバーサルグリーンツーリズム」がありうると思う。（なんでもあり農園小作人の松）

■「全国エコツーリズム大会 in 南信州」に参加して  
修学旅行の呼び込みなど、豊かな自然と地域資源に恵まれた伊那谷をフィールドに、長年にわたる模索の苦勞を乗り越えた「飯田型ツーリズム」にスポットが当てられた。去る三月四日から六日までの三日間、飯田市で開催された「全国エコツーリズム大会 in 南信州」に、屋久島を始め全国各地から駆けつけた参加者は、当初の予定数5百人をはるかに上回る盛況ぶりで見事な幕を開けた。  
この全国大会は、環境庁が飯田市をエコツーリズムの実施モデル地区に指定したのを契機に開催に至ったもの。教育、環境保全、食と農、地域づくり、ライフ

スタイルの見直しなど、地域が抱えるさまざまな問題をエコツーリズムを通して考えてみようという趣旨の元、初日のトークセッションには遠く三陸から駆けつけた醤油屋の親父など、全国各地で息を吐いている実践例を紹介して、飯伊の多彩な資源を実践例で紹介して、飯伊の個性を、実地に見極める翌日の体験学習に備えた。

基調講演は「エコでスローなツーリズム」をテーマに、ナマケモノ倶楽部世話人を自称する辻信一氏（明治学院大学教授）は「経済競争は時間を巡る競争だ。歯止めがきかず加速する一方の経済や産業の枠組みの中で、暮らしにくく生きづらくなると時、ふっと抜け出る経験がしなくてはならない。そんな異質の時間を生きた旅こそが」と述べ、エコツーリズムは人間が元来必要としている自然や文化の時間を、もう一度自分の中に組み込む重要な意義を訴えてくれるものだと言った。開催の意義を強調した。

●資源活用を強推したと風共同で  
地域資源の良さを発見したら、その次はツーリズムへの活用方法。そこでこそその風の人との交わりが必要となる。異なる資源ごとと活用の形態もまた様々。その渡り歩きにまた得もいれぬ魅力と秘めて、人は一言でネットワーキングと秘める必要を説くが、ネットワーキングは作ろうとして出来るものではないと、竹前雅夫氏（飯田市エコツーリズム推進室）の経験から学び取った苦言に力が籠もった。問題は埋もれた地域資源にどう光を当てるかだ。全てはもがきあがいている現場をそらしてのネットワーキング論ほど白々しく耳に響くものはない。今大会は、自ら目で地域資源を見つめ、どうツーリズムに活用するか、歩いて見て、食べて、遊んで試す時間の中から掴み取ることを主眼に、二日目は十二の分科会に分替えて、土と風との共同作業に場を移し替えて進められた。

南宮映の盛衰劇を例どり、ダム湖浸水計画の成立を否定する持論を前提に、されど今も尚生き続けている流域の暮らしが培ってきた歴史と文化がある。物理的な川との関わり道の塞がれても、先人が残した不滅の地域遺産から、明らかに時間と空間を超えた、人と川との対話の歴史が見えてくる。

一方、流れを失わぬ川には、川の素顔に直に触れられる環境が残され、そこには素晴らしい自然と調和する空間に川の生態系が息づいている。伊那谷自然友の会の堤久氏は、子供たちが幼年期のうちから、自然の中で仲間と過ごす体験の必要性を訴えた。

■「みんなの都田川水源まつり&菜の花プロジェクト」  
学舎の近くに都田川を堰き止めて作られたダム湖がある。ダム湖で育った鮎が北上する全国でも珍しい川で、この鮎はブラックバスやブルーギルが繁殖してバス釣りのメッカにもなっている。人の集まるところご多分にもれずごみも散乱しはじめる。地域の人が釣り愛好者、野鳥の会の人たちがそれぞれに活動していたが、行政もまじえて一つのイベントにつき会合を重ねて、昨年めだか生が中心となった「第一回いなさ湖水源まつり」を開催した。今年は市町村合併もあり、こう進めた「都田川水源まつり」と、もう一歩進めた「菜の花プロジェクト」を立案活動できる「菜の花プロジェクト」を立

（松田不秋メダカ）

ち上げることにした。  
楽しく遊びながら知識も高めて汗をかき自然の楽校。今年はタイトルも変えて『みんなの都田川水源まつり』&『菜の花プロジェクト』。8月20(土)・21(日)の2日間で、都田川ダム湖「いなさ湖」野外ステージを主会場に開く。合言葉は『菜たときよりも美しく、みんなでキレイ!!!』

20日は18時から星空のもとでの岸露紡サクソフオムコンサート。追っかけファンもいる感動のコンサート。子どもたちには是非聞かせたい。21日は8時30分集合して、都田川水源探検隊「棚田見学と水中生物探検隊」「いなさ湖魚種体験隊」の3つの探検隊を組織して水と遊ぶウオーク。竹で筏をつくって湖上ウオーク。探検隊報告と水質検査、清掃活動もして、最後は五平もち、手打ちそば、焼きウインナーなどのグルメいろいろ。

「菜の花プロジェクト」は、野外ステージ周辺を菜の花と紫大根の花を植えて『花の揺りかごとくり』斜面ガラ場を菜の花で彩る。タネは流れて浜名湖まで。楽しく遊びながら汗もかいてあなたは自然の芸術家。プロジェクトの一員になって汗をかきましょう。  
「みんなの都田川水源まつり&菜の花プロジェクト」の実行委員になってくれる方、事務局榎原幸雄メダカ(053・545・0381)まで。

### 第二回浜松美術協会展

鈴木真弓メダカらが中心となって「浜松美術協会創立記念美術展」が7月26日(火)から31日(日)まで、クリエイティブビル、浜松市教育委員会と共催して開催する。入場無料。「浜松市の文化行政は“音楽の町浜松”をイメージアップするため」として力を入れているが、市民レベルの文化活動に対しては無関心をそっているように感じる。これでは浜松の文化は育たない」と、浜松市で創作活動する四百人ほどの人が協力しあって立ち上げた協会。

同美術展の問い合わせは鈴木真弓メダカ(053・4335・7021)まで。

### 綿づくり1トンをめざして

『ソノ』法人ガラ紡愛好会(会長本田量子元メダカ)では、綿づくり1トンをめざして頑張っている。旧福田町の空工場にガラ紡機械の移転の話があり、そのガラ紡機械でふきんをつくるのにも、たたくと、休耕地を貸してくださる方がいまだ少ないので紹介してください。合成洗剤を使わずに家庭の食器洗いでできる『ガラ紡ふきん』。私たちの活動にご協力を!と高木初美メダカから便り。ご協力をいただける方は、『ソノ』法人ガラ紡愛好会(053・462・5354)まで。

### 浜川つづじ祭り

引佐町浜川の天然記念物「浜川つづじ」のお祭りは、5月12日から29日まで、浜川つづじ公園周辺で開かれます。今年「浜川合併」の係もありいなさつづじ実行委員会(実行委員長伊藤茂男メダカ)では、「浜川大好き人間」を募集。大好き人間が増えれば大成功。是非お出掛け!お問い合わせは、てんてんごしづ川(053・545・0452)まで。

### 人・ひと・ひと：だより

○森町の榎原淑友メダカ。森町町議選に立候補、上位の2番目で当選。町長選では惜敗したが町議として町政に参画。積極的に発言して住民とのパイプ役に。森町は光りますぞ!  
○磐田市議には小野泰弘メダカ。磐田市議として市町村合併に尽力してきたが、今度には新磐田市議として活躍を!  
○磐田市(旧豊岡村)の鈴木正士メダカ。3月31日をもって役場を退職。今後は「趣味の農業に専念し晴耕雨読の生活」と。4月30日には、趣味の農業お茶摘み会”を行いました。  
○浜松市の中村明男メダカ。3月末日にヤマハ保険サービスを定年退職。これからは来春改装オートボートのヤマハコミュニティの堀野智浩メダカ。浜松市企画課から、浜松市の東京事務所へ。新浜松市の政令市実現に向けて頑張ります。  
○森町の服部守孝メダカ。4月から森町の住人に。服部工房は大忙し、リンデンバウムの柵づくりと春野町・尾上美智子メダカの大型テール造り。ひと仕事終わって『ああしんど』

○川根町の北島亨メダカ。本川根の音戯の郷の館長から、川根町の助役に。好奇心旺盛で合併しない町の女房役。  
○掛川市(旧大須賀町)鈴木武史メダカ。サトウキビ畑で雑草と格闘中!親の敵のように草むしりをする毎日です(笑)  
○細江町の上嶋裕志メダカ。4月の姫様道中に併せて行った姫街道アート展と、磐田見付宿文化展のお手伝い。終わったあとの夢風舎。いやあ工房は宝の山?  
足跡の踏み場もなし。

○磐田市(旧豊岡村)の伊藤英雄メダカ。ゴールデンウイークは「エビ辛」の植え付けで大忙し。ならばと石野省三メダカ、ご夫婦で植え付けのお手伝い。本職勝負したって。  
○天竜市は石神の里の川開き。オートナーの吉林宏元メダカ、伊藤茂男メダカらと一緒に、今年も口八丁手八丁の摘み草クッキング主宰の篠原準八メダカ。式典進行役は水村春江メダカ。磐田市の小林佳弘メダカ、リンデンバウムで食事は「わしもこれから行く」と。石神の里はメダカが泳いで大賑わい。藤野利昭・はつえ夫婦メダカ経営のそば処ふらでコンサート。ゴスペルはパワフル全開。

○3月23日に浜松名鉄ホテルで開かれた「きれいな浜名湖づくりシンポジウム」はまなこ環境ネットワークの形成をめざして、では、ガラ紡の本田量子元メダカや浜松地球村の内山ゆき多メダカ、「ゴミを捨てさせないしくみづくり」には、地域づくりサポーターネットワークの山内秀彦元メダカ。環境問題にもメダカはスイスイ。県と環境学習指導員には牧野久子メダカと神原幸雄メダカ。  
○豊田市で畜産業を営む堀田望・正子夫婦メダカ。浜川竹炭工場の協力を得て、炭粉と竹酢液などを使って豚の糞尿臭の除去と堆肥づくりの挑戦。3回やったが結果は未だ。3回目には神原幸雄メダカも同伴して堀田畜産へ。おがくず、木炭灰、竹くず、竹酢液など準備万端。結果は温度上がらず失敗「なぜだ?」の私に、元養豚家の佐原剛メダカ「バクテリアの

増殖が少ないから80度まで上がらない。バクテリアの必要栄養分が少ない。理由は糞尿にあつたようだ。4回目は目安がたつた。杉の間伐材・放置竹林・炭と竹肥料・養豚の糞尿除去と堆肥化。有機肥料と有機炭・無農薬と減農薬野菜。循環型環境づくりを目指して挑戦はつづく。加藤修一メダカも協力してくれらる。

○天竜市の本島慎一郎メダカの母君が「アイズデイ環境出版大賞と愛・地球博」に、散文詩「平和への觀賞」を、地球博によせて『を応募。入選』。本は5月中旬以降、全国書店で販売。一買って、読んで!」

### 学舎だより

●水道が使えるようになりました。●ご不便をおかけしておりましたが、自治会長さんのご尽力で4月より水道が使えるようになりました。近日中には水質検査もなされてきたようです。よかったですね。  
●学舎周辺の草刈りを行います。5月29日(日)午前九時ごろから学舎周辺の草刈りを行います。ご都合のつくお時間であれば幸いです。ご協力をお願いします。雨天の場合は中止です。

メダカ春秋は紙面の関係でお休みです。次回メダカ春秋は、紀州木の國・龍神の真砂典明メダカにお願いする予定です。

☆やったね、関京子・福盛夫婦メダカ総務大臣表彰！

長野県天龍村の関京子メダカ代表の天龍村抽餅生産組合が16年度の「地域づくり総務大臣表彰」。この賞は、個性豊かな地域づくりに取り組み町村や団体に贈られるもの。36年前に坂部地区の女性たちが途絶えつつある抽餅づくりの伝統を残そうと始めたもの。表彰されるのがちよつと遅すぎたキライもあるが、まずはめでたい。

関さん夫婦メダカには多くのメダカ生がお世話になっている。本人たちは「めだかの学校のおかげ、足を静岡に向けて眠れないと、よく主人に言われます」と言うが、山村体験やコンサートなどは関さん夫婦がいればこそ。静岡県のマイスターにもなり、静岡県の地域の女性たちの指導もしてくれている。各地の物産市にも二時間あまりの道程を車をとばして来てくれる。ありがと。感謝です。

☆東京までいっちゃん真弓の技・第55回モダンアート展入選！

浜松市の鈴木真弓メダカ・東京都立近代美術館で開催された第55回モダンアート展に応募して見事入選。陶器、工芸、美術など多くの作品が出品された中での入選、「マクラメ」という新ジャンルの開拓かも。「マクラメって靴ひもを結ぶようなもの」と本人は言うが、そんなものではない。今回の応募も、本来なら応募していなかったものを、名古屋で「ひと・ひと展」をやった時のギャラリーのオーナーが「応募してみたらの一言に発奮。何ヶ月かは応募のため作品づくり。頭も指も動かなくなつたことも。その続きは夢の中で結んでいた。夢のおかげで作品は完成。出品。子育てを終えてからもう10年、結んで結んで、結びを美術の域まで高める。「まだまだやるわヨ」と意気軒高。

片寄り気味の浜松市の文化行政の遅れを何とかしたいと、芸術家仲間とがんばっている。フレイフレイ真弓!!!

◆事務局だより

春うらら、庭の片隅に穴ぼこ三つ四つ。へび？カエル？ネズミ？。暖かくなつたので出て来たのかな？穴を棒でつつくと意外に高級住宅事情。応接間や休憩室などがあつたりして、モグラの家だつた。モグラは大食い、自分の体重くらゐ食べるんだって、知っていましたか？。足元にはちよつと視点を交えてみると面白さがいっぱいあります。

さて、第47回めだかの学校は、市町村合併についてのシンポジウムや自由討論会。どんな話が出たでしょうか。この47回はアクシデントがいっぱい。教頭の金子芳美メダカは風邪でダウン。事務局のバラメダカも高熱で五時半ごろ出て来て、受け付け名簿や打ち合わせ、芥田計治メダカへの黙祷を全員でして「あとはよろしく」と言って早退。第一部、コイデイナーの松田不秋メダカは、飯田市での全国エコーツトリズム飯田大会の報告者で出席できず、鈴木武史メダカが代行。第48回校長指名の八木正子メダカは欠席。お楽しみみの三役交代には花がない。「つまらない」とは萩田博校長。授業であるところの第一部は鈴木武史メダカ

の進行で、パネリストの中嶋豊メダカ、合併しても何も変わらない。でも前向き志向で！。榊原淑友メダカは「大きく合併すべきなのに、それになんの説明もない」と反対運動に！と本音吐露。鈴木計芳めだか「吸収されるのはいや、小さくても光っていたい。加藤修一メダカ「浜松市民の関心は薄い。行政の怠慢も困つたもの！」などそれぞれ思いを語る。第二部の生徒が自らの立場で述べた。これらの授業は録音してあるので後日まとめることに。授業の内容は鈴木武史メダカがハガキで、水島加寿代メダカが録音したのを印字して「X」で送ってくれました。「淑友さんの本音が聞けて良かった」「人が話しているのにしゃべっていい」「しめいろんなメダカ生が聞かせてくれました。第48回めだかの学校は6月3日、校

長川八木正子、教頭川藤田潤吉、用務員は小野田宗弘でしたが、勤務先の養護学校が運動会で休みがとれず徳増兼弘メダカに。

第48回めだかの職員会議を4月13日に元氣村「味里」で開く。今回は「文化」「笑い」をテーマに話し合う。鈴木真弓メダカが東京都立美術館で開催の「第55回モダンアート展」に入選展示されている。というところから一つは「マクラメ」に。全員に「マクラメ」を体験させようとして一時限を30分に拡大。もう一つは、石ころに魂を吹き込みながら「石ころ地蔵」の創作活動に励んでいる土屋誠一メダカに決まる。全体テーマは「石頭むすんでひらいて笑いの文化」に。一時限目は地学「ストーンと化けて石地蔵」土屋誠一先生。二時間目は家庭科「アー」と入選真弓の技。東京までいっちゃん「鈴木真弓先生。指先の訓練？誰です」「高齢者活性化授業」なんて言うのは、違いますぞ、「石を結んで笑いの文化・善玉菌増やそう！」ですぞ。最期はちんどんで盛り上げろう、この話もあつたが、こはちよつと抑えて「授業で盛り上げろう」ということに。

つづいて事務局より、今年の「いなさ湖水源まつり」の説明があつた。詳細はこれから詰めていくが、8月20日(土)18時から岸線緑サクソフオンコンサト。21日(日)8時30分から17時30分まで、昨年と同じように探検隊・筏づくり・筏のり、水質検査・五平もちやグレンなどいろいろ。またいなさ湖野外ステージ周辺を菜の花でいっぱいしようとして「菜の花プロジェクト」の立ち上げなど他団体と協力しながら進める。新「浜松市」の誕生記念イベントにも申請すること。めだかの学校課外授業として積極的に参加を！決める。

■第13期継続申込及び新規入学の申込み受けを行います。13期は平成17年9月1日から平成18年8月31日までです。在校生で継続希望の生徒は、申込書を同封しますので48回の開校日に入校金千円を添えて提出して

ください。出席できない生徒は、17年8月31日までに事務局あて千円を添えてお送りください。記入欄は必ず全部書いてください。住所・氏名・電話番号だけのものは再提出となります。未提出の生徒は、自主退学として名簿から外れます。ご注意ください。新入生については前もって事務局へ御連絡ください。申込書と資料を直接お送りします。よろしくお願ひいたします。(事務局・榊原幸雄メダカ)

◆今回もお詫びとお礼です。今回も発行が遅れてしまいました。発行日を変更したら「のご意見もありますが、お赦しください。発行済みまで通りとさせていただきます。発行にあつた伊藤英雄・本島慎一郎・鈴木武史・松本芳廣・石野省三・照井易子各メダカ、エヌビーネットの伊藤多恵子さんにはご協力いただきありがとうございます。感謝です。

◆めだかのたよりの原稿を！情報ください。地域のイベント、あなたの活動を！待ってます。次回発行日は8月1日です。7月20日までに郵便かFAXで、事務局(FAX:053-545-0381)にメールの方は、照井易子あてEメール/teji@netnet.co.jp メール送信の方は、割付の関係もありませんので、事務局に「一報を！」よろしくお願ひします。



めだかの学校事務局  
〒431-1253  
静岡県引佐郡引佐町東久留  
留女木472-1111  
「リンデンバウム」内 榊原幸雄  
※学舎「みどりの郷」は何もありません。連絡・お問い合わせは「事務局」まで。